

# もみじの落ち葉をくらべてみよう

## オオモミジ

「洋風庭園」から「也有園」に向かって最初の降り口や日本庭園にある。葉は大きく、切れ込みは普通は7裂。葉のふちのぎざぎざが細かくそろっている。紅葉の色は鮮やかで、一気に色づくことが多い。

## イロハモミジ

単にモミジと言ったらこれ。葉の大きさはいろいろだが、オオモミジやヤマモミジより小さい。葉の切れ込みは5～7裂で、若い木や枝元の方では5裂のことが多い。葉のふちのぎざぎざは不揃い(重鋸歯)。普通は赤く紅葉するが、日の当たり具合などによって違い、1本の木で緑・黄・赤の「三段紅葉」が見られることもある。

## もみじが多く見られる場所と時期

也有園・奥池・日本庭園などで11月中旬以降～12月上旬

☞葉の切れ込み方や数、葉のふちのぎざぎざの様子は同じ種類でも木によってばらつきがあります。また、1本の木の中でもちがひがあります。

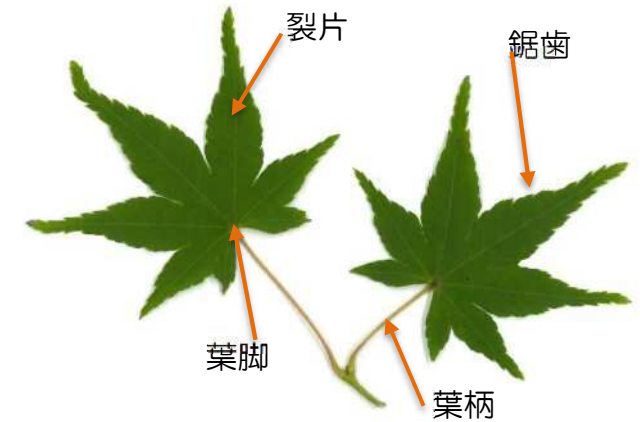
☞落ちたばかりのきれいな葉を、1枚ずつ手帳などにはさみましょう。水気を吸いやすい紙にはさんで重しをし、紙が湿ったら取り替えて乾かすときれいな色が残ります。

\_\_\_月\_\_\_日 なまえ\_\_\_\_\_

園内で数が多いのはイロハモミジ、「也有園」にはオオモミジがあります。落ち葉をくらべてみると1枚1枚葉の形が微妙にちがいます。たくさん集めて比べてみましょう。

## は 葉の形をあらわすことば

イロハモミジやオオモミジの葉のように、手の指をひろげたように葉が切れ込む形を「掌状裂」、それぞれの指にあたる場所を「裂片」といいます。指が長いのが「深裂」短いのが「浅裂」です。



葉のふちのギザギザは「鋸歯」といい、オオモミジとイロハモミジでは明らかにちがいます。

葉のつけ根の部分が「葉脚」、木の枝と葉をつなげているものが「葉柄」です。



浅裂タイプ

オオモミジ



深裂タイプ



鋸歯の切れ込みの深さがほぼそろっている  
オオモミジ



鋸歯の切れ込みの深さに浅い深いがある  
イロハモミジ

形のちがいを見くらべてみよう



浅裂タイプ

イロハモミジ



深裂タイプ